

中学校で不登校、高校中退でも米国4年制大学を首席で卒業

現在27歳の彼は、中学3年生の4月、たまたま学年主任が私の高校の同級生だったことから、私が公立の中学校から初めて相談を受け、対応した青年です。彼が手紙で書いておりますように、中学3年生の4月から学校を休み始め、様々に対応しましたが、以後卒業まで殆ど欠席。ご両親には、彼の場合、現在の状態を彼自身が受け容れるため、暫く引きこもりが必要だとお話しさせて頂き、彼の手紙にもあります通り、彼が18歳になった時の冬、彼から電話が来るまでそっと見守っていました。その彼がその後2年間英語を猛烈に勉強して、初挑戦のTOEICで、なんと830点(990点満点)を取得。この手紙で彼が望んだ通り、その点数でアメリカ・ワシントン州の私立短大から特別に入学が許可され、晴れてコンピューターのプログラミングの基礎を学ぶことが出来たのです。そして、毎日勉強で午前様の生活で殆どがAの成績でその短大を卒業。そのことがワシントン州で話題になり、ワシントン大学学長から3年編入の話が来て、同大に編入。ワシントン大学でも彼の大変な努力で全てAの首席で卒業しました。その実力が買われ、現在は今や世界一の自動車会社になったT社系列の会社でナビの開発に取り組んでいます。これは、そんな彼から短大入学前の2002年の9月19日付けで頂いた手紙です。お読み頂くと分かりますが、これは彼が自分の経験から、不登校や高校中退を経験した人達を助けたい一心で公開を前提に書いてくれた手紙です。じっくりお読み下さい。なお、()内は私が書き加えたものです。ご了承ください。

私の名前はIKです。20歳です。父は銀行で働いていて、母は週2日パートとして働いておりますが、他は家におります。6つ年上の兄がいて、JAで働いています。

私は高校1年の時に学校を中退しました。中学3年の初めに病気でしばらく学校を休んだため(4月に高熱、肝炎による黒尿で週に4日、3日、4日と休みが続いた)、勉強が遅れてしまい、それまではかなり良い成績(250点中230点以上を)を取っていたのですが、その年には学力を取り戻すことが出来ませんでした。それで自分の目指していた高校(中学2年の9月頃から地域では進学トップ校のF高校を志望していました)よりもかなりレベルの低い高校に行かなければならず、また授業が分からないことも度々あり、今まではそういったことはあまり無かったので、それが大変苦痛でした。それでその高校を中退したのですが、今ではとても後悔しています。その期間両親とはこれからどうするかたくさん話し合いをして、時には口論にもなりました。親は私にどうしても高校を続けてほしかったようですが、最近になりやっと親が正しく、自分が間違っていたと気付きました。しかし、当時はその時の事しか考えておらず、これが最善だと思い中退しました。その後は、親は私に勉強しろと言うのを止め、私が立ち直るまで辛抱強くそっと見守ってくれました。とても有難い事だし勇気の要る事だと思いますが、私が立ち直れるのを信じていてくれたのかもしれない。もし親が私に勉強しろと言いつけていたら、私はき

っと勉強が大嫌いになっていて、今頃何をしているのか見当もつきません。兄もよく相談に乗ってくれました。6つ年上なので兄というよりはとても仲の良い父のようで、自分としてはとても頼れる存在です。私のことをいつもとても心配してくれていて、「何でも良いから相談しろよ」と言ってくれたり、また「親にあまり迷惑をかけるなよ」など家族全体のことを気にかけていました。

中退してから2年経った頃から私はコンピューターに興味を持ちはじめ、学校に行きたいと両親に頼みました。また英語が好きだった事と、以前から海外留学が夢でそれを実現したかった事から英語の勉強を始めました。(彼が18歳の12月、突然本人から私のところに英語を勉強したいとの電話があり、それからなんと3ヶ月で高校英語を一通りマスターしたのです!)日本で勉強することと海外で勉強することはとても違いますが、これは私にはとても重要なことなのです。なぜなら日本で勉強すれば過去のことを思い出してしまい、勉強が捗らないかもしれないからです。しかし、海外で勉強すれば場所や人々、環境や雰囲気も違い自分の気持までもが変わり、自分の過去を忘れて一からやり直せる気がします。日本ではコンピューター、英語共に習うためには大変お金がかかり、途中でまた止めてしまうのではないかという不安もあったにもかかわらず、両親は快く了解してくれました。ところが、日本では中卒者が習えるコンピューターは基本的なことだけで、私はもっとプログラミングなどの専門的なことを習いたいのですが、日本のシステムではそれは難しく限界があります。しかし、最近アメリカでは私の場合それが可能であることを知りました。こういった理由からアメリカの短大で勉強します。それで留学するために一生懸命英語を毎日勉強しました。さらに1年間ほど海外で勉強できる学校も探していましたが、中卒者を受け入れてくれて、コンピューターを専門的に習える学校を探すことは出来ませんでした。同時に仕事も探していましたが、大学卒業でないと難しく、私のやりたい仕事を取ることは出来ませんでした。そういったことから中退したことをとても後悔しているのですが、最近これが全くの無駄ではなかったと気付きました。例えば、勉強することの大切さを知りました。また、(日本では)行ける学校を探せなかったため、(ここアメリカでは)専門的に勉強できることの素晴らしさを知り、もしチャンスがあれば次はもうないだろうし、今度はその機会を最大限に生かせると思います。普段当たり前に感じていた親の有難さも知ることができました。私が一人前になるために色々な努力をしてきていて、今ではそのやさしさが痛いほど胸にしみます。高校に行かなくなりだした頃、まだ正式には中退していなかったのに、親はしつこく何度も戻るようにと言ってきました。それは今にして考えれば、私が将来中退により就職するにも進学するにも難しくなるのを知っていたの事だったと分かります。また兄も「あと3年我慢すれば、大学は休みが多く簡単だ」などと冗談交じりに私を説得しようとしていました。兄とは仲が良く、言うことも聞いていたので、おそらく親が頼んだのだと思います。(確かにそうでした。)今回の件に関しても、準備することがたくさんありお金もかかるのですが、私が短大に行けるかもしれないということで、大いに喜んで準備を進めてくれました。私は一人前になって家族を安

心させたいですし、今までの親の苦勞と自分を信賴してくれた事に何とか報いたたいです。

もしこの短大入学が実現したら（勿論、実現しました！）、卒業後四年制の大学に入学し更に深く勉強したいです。その後は就職するつもりですが、もちろん英語とコンピューターを使える仕事に就きたいです。違う国の文化にも興味があり、将来は様々な国で働きその文化を学びたいので、世界規模で活躍している会社で働きたいです。色々な人に出会い日本とは違う文化を学べば、自分が物事を考える時に様々な違う見方が出来ると思いますし、自分の世界観も広まると思います。それはとても素晴らしい事ですし、そういう人間になりたいです。英語を教えることにも興味があります。いくつかの英語学校で習い、自分でも勉強したので、こうやって教えたらいいのではないかといった自分なりの考えを持っています。特に日本では英語を書けて読めるのに話せないケースがとても多いので、コミュニケーションが出来ることのすばらしさを伝えたいのです。そして私の留学の夢がかなったら、もう一つしたいことがあります。今日本では不登校や高校中退者が年々増えておりますが、私の経験を生かしてそういった人達を助けていきたいのです。私が高校を中退した頃何人もの人達がアドバイスをくれ、相談もしてくれましたが、私は経験した人でないと私のことは分からないと思い、あまり真剣に聞きませんでした。世の中の不登校や中退者は似たようなことを考えていると思いますが、私はこれを経験しているので、彼らの気持ち、考えていることや感じていることなど他の人達より分かると思いますし、それより相談にのることが出来ると思います。私がここまで立ち直れたのは、両親を始めその他にも私を支え、助けて下さった方々が周りにたくさんいたからだと思っています。だから、今度は私が不登校や中退者を救っていきたいと思っています。

〇〇 〇〇（本名署名）

平成21年9月30日